

令和5年度第1回岐阜県総合教育会議 議事録

1 開催日時及び場所

令和5年6月16日(金) 13時30分 ~ 14時20分

岐阜県庁舎 20階 会議室2004

2 出席者

知事 古田 肇

教育長 堀 貴雄

委員 村上 啓雄

委員 市川 祥子

委員 打江 記代

3 オブザーバー

清流の国推進部長 長尾 安博

副教育長 富田 剛

4 陪席

参与兼義務教育総括監 香田 静夫

清流の国づくり政策課長 西 千代美

教育総務課長 関谷 英治

5 議事録

別紙のとおり

## 議 事 録

発 言 者	発 言 内 容
清流の国 推進部長	<p>これより岐阜県総合教育会議を開催する。</p> <p>本日は、「岐阜県の教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する大綱」、いわゆる岐阜県教育大綱について、見直しの方向性等に関しご意見を賜りたいと考えている。また、岐阜県教育ビジョンは教育大綱のアクションプランの一つと位置付けられており、密接に関連している。こちらも同時期に策定となるため、併せて方向性等についてご説明させていただく。</p> <p>それでは、時間も限られているため、次第に沿って進めさせていただく。</p>
<b>第3次岐阜県教育大綱（岐阜県の教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する大綱）の策定について</b>	
清流の国 推進部長	資料1及び1-2～1-5により説明
<b>第4次岐阜県教育振興基本計画（岐阜県教育ビジョン）の策定について</b>	
副教育長	資料2～4及び参考資料1、2により説明
清流の国 推進部長	それでは、意見交換に入る。大綱やビジョンの見直しに向けて、また、教育を取り巻く環境変化や課題について、幅広く忌憚のないご意見をいただきたい。
<b>意見交換</b>	
市川委員	<p>教育を受ける側の子ども達も、色々感じるものがあると思う。限られた時間の中で、例えば世界に通用する、と言っても、大学に行くための勉強も並行して行われるわけなので、指導者の方も生徒たちもいっぱいいっぱいになっていると思う。</p> <p>ICTの活用についても、それを活用するための勉強で時間や体力が無くなって</p>

	<p>いく。教育を受ける子ども達側にも、両立のための新しい案や考えがあるかもしれない。そういった現場の意見を吸い上げてみるのも面白いのではないか。</p>
<p>村上委員</p>	<p>(現行教育大綱の基本方針の)「3. 未来を切り開くための基礎となる力をはぐくむ教育の推進」の「(5) 豊かな人間性を育む教育の充実」にも、いじめや不登校に対する取組みに触れているが、世界に羽ばたいたり、岐阜への愛着を持ったり、多様な学びを推進したり、一人一人の能力を上げるという意味での色々な項目があるが、やはり人間力を上げる、ということがもう少し大きな項目として出ていても良いのではないか。</p> <p>人間性、人間力、コミュニケーション能力というものが、どうしても今の社会ではSNS等でマウンティングをしたりして、自分より上か下かという、そういうアンテナは張れるけれども、様々な立場の他人の気持ちとか立場に敬意を払ってコミュニケーションをとることができる人が随分と減っているように思う。</p> <p>「豊かな人間力」というものがもう少し前面に出れば良いのでは。もう少し大きく項目に上げてはどうかと思う。</p>
<p>打江委員</p>	<p>子ども達が将来に対し夢を描いて、感動のある学校生活ができることがすごく大事だなと思う。やはり、経済的な面でも色々なご家庭があるので、自分の将来に夢を描くということが、学生の皆さんには必要なことだと思う。</p> <p>ふるさと教育は私も大事なことだと思う。自分の根拠をしっかりとということ、根っこの部分を育てるという意味で「ふるさと岐阜」は大切。私は飛騨の人間だが、飛騨の生徒さんはほとんど、大学に行く時は地元を離れる。県外で下宿生活をする。その際には経済的な面もあるし、また、私もそうであったが、逆に外からふるさとを見たり眺めたりすると、「飛騨って良い所だな」、「人の繋がりがあったな」と、ふるさとの良い所を見つけることができるように思う。多分、飛騨の学生はそういうことを感じる人が多いと思う。そうやって、ふるさとのことを考えたり、ふるさとの人と繋がり、地元で生きる人の考えを学ぶと、いずれはまた地元に戻ってきて担い手になってくれるのではと思う。</p> <p>私は工業系の企業を営んでいるが、工業高校の生徒さんの企業見学とか、インターンシップは受け入れることがあるが、他の企業さんもそうだが、なかなか普通科の生徒さんのインターンシップが集まらない。大学を卒業してから地元の企</p>

	<p>業に勤めようと思った時に、「こういう企業もある」ということを、普通科の生徒さんにも知っていただくことも必要かと思う。農業、工業、林業など、色々な地場産業を知ってもらうことが大事。</p> <p>特別支援教育については、個別のイメージがあると思うが、何か教育の根幹をなす部分があるのではと思っている。本年も3年間の実習をもって弊社に1名入社したが、やはり、会社と特別支援学校との結び付きは非常に大事だなと思う。今までの少人数の学校から突然、大人数の会社に入っていく。生徒さんのスムーズな就職という点で企業と学校の結び付きは大事だと思う。特別支援学校での生活は3年間かもしれないが、企業とはこれから何十年も関係が続いていくわけなので、スムーズに就職できるということは大事だと思う。</p> <p>学校の中でも、教員の皆さんは本当に大変な毎日をご過ごしていらっしゃると思う。子どもにとっての、生徒さんにとっての、魅力ある学校というのは大事なことです。一方で、先生にとっても魅力のある学校づくりは、働き方という面でも大事だと思う。</p>
村上委員	<p>(現行教育大綱の基本方針の)「5. 質の高い教育環境づくり」の中に色々な項目があるが、今、教育現場でどういうことが行われていて、どういう取り組みをしている、ということを経験の住民の方にもう少しオープンに理解をしていただいて、学校教育に安心を持ってもらう、あるいは子どもを預けることに関して信頼を持ってもらえるような、そういうアピールが必要なのかなと思う。PTAや自主的なところではなくて、学校側から、先生方が苦勞しておられることも含めて、どんなことに取り組んでいる、こんな最先端のICT教育をやっている、といった、夢のあるような学校教育をアピールすることが必要であると感じる。</p>
市川委員	<p>資料3の各項目について。教育というのは、育てて、外に出て行く、ということで全部繋がってくるが、経済の動きを全く分かっていないで、いきなり社会に出る子どもが沢山いる。それがなくて生きていけない。新たに経済に関して学ぶというポジションを作らなければ。例えば、学校と地域・家庭の結び付きの項目の中で教育の手法の一つとして経済を学ぶということを取り入れるなどにより、自立して生きていく、自分で考えて新しいことを興していく、という人間を育てることにすぐに繋がるのではないかと思う。</p>

	<p>県立高校のチャレンジひとつにしても、「今までに無い」、「日本の中で初めてやる」というような柔軟な取組みを子ども達にも見せて、大人サイドが「ちょっと失敗しても面白いことをどんどんやっていこう」というような雰囲気がある岐阜県になるととても良いのではないかと期待している。</p>
清流の国 推進部長	<p>ひとまずここまでのところで、教育委員会で現に行っている取組みなどがあれば。</p>
教 育 長	<p>ご意見ありがとうございました。</p> <p>現にやっていることを一つ一つ挙げるときりが無くなるので、例えば、村上委員がおっしゃった「地域への学校のアピール」という点で言えば、県立学校についてはコミュニティスクールという形で実施している。そうした中で、特に小規模校のG1、G2の取組みでは、今まで市町村の首長さんに県立学校に対してご意見いただくことは無かったが、そうした協議会の中にも首長さんに入ってくださいなど、努力をしているところ。</p> <p>小中学校においても、やはりコミュニティスクールの比率が非常に高くなっており、そういった面では地域に開かれたというか、地域のご意見を十分踏まえながらやっているところ。</p> <p>打江委員さんに質問させていただきたい。打江委員の企業を見学させていただいたが、障がい者雇用を長年やっていらっしゃる。そうした姿を拝見して、今、「学校との連携が必要だ」とご意見をいただいたが、障がいのある方を長い間雇用される中で、大変失礼だが、企業としての効果などをこれまでのご経験を踏まえてお話いただければ。障がいのある方に対する教育のあり方の参考とさせていただきたい。</p>
打江委員	<p>現在の状況の話でよいか。</p>
教 育 長	<p>障がい者の方が企業に入って今どのような状況か。プラスになった点などお聞かせいただきたい。</p>
打江委員	<p>弊社では、50年ほど前から軽度の知的障がいのある方を雇用している。特別支援学校の先生も企業のことを知らない、生徒さんをどこに実習に行かせることができるかということの選定にとっても迷うと思う。子どもの特性もあるので、企業を知らない、果たしてこの生徒さんが合うかどうか、という選定も難しい。</p>

	<p>また、生徒さんが弊社に入っていらっしゃってスムーズに溶け込んでもらうために、特別扱いはしないようにしている。質問する力というのはとても大事。分からないことは「分からない」と、ちゃんと聞いてもらう。分からないことを聞くということを、ちゃんと学校生活の中で身に付けているかどうか。</p> <p>また、生徒さんの特性について、職場の周りの方々の理解を得られるように私から職場の方々に話している。こういうことは苦手だけどこういうことはできる、と周りにきちんと説明する。また、困りごとはないか、本人とも話をする。</p> <p>また、衣食など生活の面でも支援をしている。受け入れる側は、それなりの準備をして受け入れている。長く続けて働いていただくためには、職場への安心感がなくてはいけない。また、本人にとってやりがいがないといけない。そんなことを考えながら働いていただいている。</p>
教 育 長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今、個別最適化の教育ということが叫ばれる中で、今のお話のような障がいのある方に対する取組みが、これからの教育に繋がるかと思い質問させていただいた。</p>
市川委員	<p>企業側の視点で言えば、企業は経営をしていかなければならないので、障がいのある方を雇った場合の助成金や補助金についても考えなければならない。</p> <p>助成金、補助金があるということは、県として、政府としてどうしていきたいかという目的や方向性があるということ。どういう方向に進んでいくかということ子ども頃から、大人も含めて、企業も学校も気付きながら進んでいくのが一番近道なんじゃないかなと、日頃から思っている。</p>
村上委員	<p>話が飛躍するかもしれないが、企業の中でも学校の中でも、ある特殊な集団を教育する際、私はこの十数年、地域枠の学生を育ててきているが、彼らは周りの普通枠の学生からは違う目で見られる。</p> <p>彼らに一番重要なことは、教育者側が「君達も一緒に教育をしているんだ」というサインを送る、すなわち、コミュニケーションを持って、ただ“How are you?”と聞くだけなのだが、最近どうなんだ、という声掛けをする。あるいは面談をするということはずっと心掛ける。一部は離脱したりする人もいるし、障がいのある方</p>

	<p>も離脱することもあるんだろうけれども、全体からみると、コミュニケーションで離脱者を少なくすることができるのではないかと感じてやってきた。私の後任にもそれを伝えていくつもりだ。そういう、ちょっと標準的な集団とは異なる人達を育てる時には、やはり声掛けが大事なんじゃないかなと思う。</p>
教 育 長	<p>今のお話を少し補足させていただくと、岐阜大学の入学試験において、一般枠の他に地域枠を作っているから、岐阜県出身の卒業生を見ていただいている。そういった学生に対する声掛けをして、一般枠と地域枠を分け隔てなく教育しているということ。地域医療にはなくてはならない地元の医師を育ててみえる、というお話だった。</p> <p>実は先日、ある高校へ行ったら、入試は今500点満点だが、450点を超える子から200点を切る子まで、同じ学校で学んでいるという話があった。そうしたことを考えると、この少子化の中で、高校のあり方を考える必要がある時に、村上委員のおっしゃった声掛けをきめ細かく一人一人に行うということは大事ななと感じた。</p>
清流の国 推進部長	<p>皆様から、学校と社会との関係、特別支援教育の関係、それから人間力、また、学校の先生も大変ではないか、といった幅広いご意見をいただいた。また今後、私どもの方でご意見を集約させていただいて、次に反映させていきたいと考えている。</p> <p>それでは、教育長から総括的にご意見を。</p>
教 育 長	<p>大綱もビジョンも、この1年間かけて作っていくということで、今日、この時点でいただいた意見をまた参考に、ビジョンについて言えば、ビジョンの委員会の方におろして、より具体的な方法を定めていきたいなと思っているところ。今日はご意見が出なかったが、第3次教育ビジョンの5年間は、まさにほとんどがコロナ禍で、そういった点についても、村上先生も教育委員でいらっしゃるから、またご意見を頂戴しながら、色々と環境が変わっているから、アフター・コロナにおいてこういった方向性を示していくのか、というところについても考えていきたいと思っているところ。</p> <p>併せて、来年は、何と言っても岐阜県にとっては文化の年。もちろん、文化については教育委員会からは離れたところにあるとは言えるものの、一体である、という風に私どもは思っているから、総合文化祭も開催されるし、教育における文化、さらにスポーツの影響というものも考えていきたいし、私としてはそれらもビジョン</p>

	<p>の中に盛り込んでいけたらと思っている。</p> <p>また今後も、色々な点で様々なご意見をいただければ幸いに思う。</p>
知 事	<p>限られた時間の中で、まだまだ言い足りないこともあろうかと思うが、貴重なご意見を沢山ありがとうございました。</p> <p>この大綱・ビジョンの見直しの節目に来ているということで、今回議論の場を設けさせていただいた。大綱もビジョンもそれぞれ、まだついこの間議論をしたばかり、というような気がしている。あっという間に5年が経ち、ルールとしてのひとつの節目に来た。</p> <p>この5年間も、非常に時代の変化を強く感じる5年間であった。特にコロナの問題をめぐっては色々なところにインパクトがあった。また、ロシアのウクライナ侵攻以降の様々な混乱は、グローバリゼーションの限界や様々な課題を突き付けられている。</p> <p>そういった急速な変化の中で、変えてはいけないもの、変えなきゃいけないものを見極めていくことが、見直しの中では大事なところだと思う。私どもとしては、前回の大綱・ビジョン設定時の考え方や時代背景と、そこから何が変わって、何を变えてはいけないか、という観点で策定していきたいと考えているし、今日の議論でもそういう観点が沢山含まれていたのではないかとと思っている。</p> <p>特にコロナについては、村上先生からも様々な角度からご指導いただいているところだが、コロナで何が変わったか、ということも一度総括してみる必要がある。その意味で、7月10日にミナモホールでシンポジウムを予定している。教育の世界でも大きな変化があるので、そのあたりもしっかり見つめながらやっていきたいと考えている。</p> <p>それから、私どもは「アフター・コロナは文化から」と言っているのだが、ソーシャルディスタンシングということの中核にしたコロナ対策を経て、やはり、人と人が接触をする、ふれあうというのはかけがえのないことであるということ強く感じている。また、DXの急速な進展の中で、やはり文化の大切さというものをもう一回きっちり見直すということがアフター・コロナのひとつの大きな課題ではないか。ちょうど来年は国民文化祭もあるので、そういう問題意識を教育大綱やビ</p>

	<p>ジョンにどのように反映させていくか。</p> <p>また、このところ急速に色々なところで顕在化しているのは人口減少、人材不足、それから高齢者の急増・若年層の急減といった状況。</p> <p>特に地方では、進学を機にそうした状況が更に進んでいるわけだが、どうやってまたふるさとに戻ってきてもらうか、ということについての様々な手立てを、企業も、教育も、行政も工夫を重ねている。そういった人口減少や人材不足の中で、子ども達が可能性を伸ばし、地域への愛着を育んでいけるような環境づくりが重要。</p> <p>それから今日は話題に出なかったが、これからおそらく急速に外国人の方も増えてくると思う。私どもは外国籍の岐阜県民と言っているが、そのお子さんたちの教育をどうするかという問題もある。色々なところに教育は関わってくる。せっかく約1年かけて大綱・ビジョンの策定作業をやるわけなので、幅広く分析をして検討し、整理したいと思っている。今申し上げたような論点や、プライオリティについても、またご議論いただきたいと思う。よろしく願います。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>
<p>清流の国 推進部長</p>	<p>今後ともご議論をよろしくお願いしたい。</p> <p>それではこれをもって、岐阜県総合教育会議を終了させていただく。</p> <p>本日は誠にありがとうございました。</p>